

令和元年、おめでとうございます！

「令」と「和」の意味を辞書で調べてみました。

(『学研緩和大字典』)

【令】もともと、こうこうしい神のお告げのこと。

清らかなお告げの意味を含む。そこから君主や上位者のいいつけという意味が出て来る。

冷(清らかな水玉や氷)・玲(清らかな玉)・伶(清らかな人)・靈(清らかな巫女、祭礼、魂)と同系のことば。

【和】人の声と声が調和する。

和らぐ・和らげる・和む・和やか
日本のこと



和える(混ぜ合わせて調理する)・和ぎ(海上の風や浪がおだやかになる状態)

神武天皇が、橿原の地で日本の初代天皇としての

位につかれ、「天照大神からいただいた国なので、その徳に応え、正しさを養い、世界が大家族のように仲良くしていこう」という理想を述べられました。以来、二六七九年間、ずっと「国安かれ、民安かれ」と無私の心で祈り続け、国民を元々として、わが子として慈しみ続けて下さる天皇を中心に戴く日本は、何と素晴らしい国でしょう。令和元年五月一日、「三種の神器」の「草薙剣」「八咫瓊勾玉」等を承継され、第百二十六代目の新しい天皇が即位

されました。

【節供の起り】

わが国は、豊葦原瑞穂国と言われ、美しい四季の自然に恵まれた農耕民族として、自然と一体となつて生活してきた国です。

「山も川も草も木もお米も野菜の一枚の葉でもみな神の生命の現れである」というのが、「古事記」が編纂される時代よりも古い時代から伝承されていた日本人の思惟でありました。神は到るところに充ち満ち在ますと信じていたので、それぞれの季節にもその季節を掌る季節神があり、季節の変わり目には、その季節神の目が弛みがちなので、一層その保護をたのまねばならぬと考え、行く季節神を送り、来たる季節神を迎える祭りを行なつたのが節供の起りであると考えられています。節供とは即ち「季節の物を供える」という意味で遠く古の時代から一般に行われていたようです。

【端午の節供】五月五日

端午は月の初めの午の日という意味で、五月は午の月に当たるので重午(ちようご)・午の月の午の日)が選ばれ、重五となり五月五日に固定しました。この季節に最も生命の躍進を象徴するものは菖蒲で、緑刀の如く鋭いその葉は、大地より天を刺す如く力強く、沼に、田に、堤に：到る所、澁刺とした雰囲気を作ります。全ての邪気を払うであろうとさえ思われる高い香気が、あたりの空気にしみ渡る菖蒲を屋根にさしたり、湯に入れたりして邪気を払い、健康を祈りました。菖蒲の節句ともいわれるゆえんです。



飾り物としては、外飾りとして武者絵の幟、鯉幟、内飾りとして兜や武者人形があります。

十月二十六日(土)
木村悠方子さんの講演会、楽しみです！



木村悠方子先生の講演会、楽しみにしています。

私は、三年ぐらい前に木村先生の講演をお聴きして、先生のお話の、やわらかい雰囲気の中にもきりつとした凛々しさと愛深いお人柄を感じ、感動しました。

その木村先生をお迎えして、講演会を十月二十六日に、なでしこホールで開催できるのは夢のようです。先生はお話の中で、体調を崩された時、「身体の全身すべてに『ありがとうございます』と感謝し続けた時、癒やされた」体験談をして下さいました。

それから時々私も「私の頭さん、ありがとうございます。口さん、ありがとうございます。鼻さん、ありがとうございます。」と続けていると、いつも感謝と感動の心に満たされます。

一秒も休むことなく働き続けてくれる心臓さんは、血液を全身に流して下さり、生かして下さっている。何を食べても必要に応じて消化し吸収し排泄し健康を保って下さっている身体さん。私が動かしているのではない、大いなる力、不思議な力で生かされている事に、感謝と感動でいっぱいになります。

今回、先生がお話して下さいるテーマは、「食といのちの大切な話『いただきます』」です。どんなお話をして下さいるか、今からワクワク楽しみにしています。一人でもたくさんの方に聴いて頂き、この感動を共有したいと思えます。(甲斐敬子)

和歌コーナー



おしゅうじで かたづけましたよ

がんばった 「はた」というじをかきました

年長 N・Y

☆片付けもしつかりできて、すばらしいですね。

にゅうがくしき たのしかったよ

おかあさんと おとうさんとで いったんだ

小学一年 T・Y

☆ぴかぴかの一年生ですね。たのしい小学校生活が始まりましたね。

にゅうがくしき おちはおは 父母といったよ

さくらもね きれいにさいてた しゃしんもとつ

たよ

小学一年 M・S

☆さくらもきれいにさいて「おめでどう」と言っているみたいですね。

クラスがえ してる人が いたんだよ

あたらしいともだちが できたんだよ

小学二年 Y・T

☆新しいクラスで、新しい友達ができて良かったですね。



てらこやで しぜんかんさつ なのはなの
たねが十五こ びつくりしたよ

小学三年 N・E

☆なのはなのさやから、種がいっぱい出てきましたね。

あたたかい 春になったね うれしいね

さくら満開 とってもきれい

小学五年 M・A

☆満開のさくらを見ているとワクワクしますね。

さくらばな 満開になり 気持ちよし

六年生になれて うれしいな

小学六年 Y・Y

☆いよいよ最高学年ですね。はりきっている気持ち
ちが表れています。

宿題が 大量に出て 先見えぬ

ゴールデンウィーク いやになる

小学一年 N・K

☆思うことを思うまま素直に和歌にできましたね。



声に出してひびきを味わおう

今月の言葉

万葉集 第一・二八

第四十一代 持統天皇 御製

はるす

春過ぎて

なつき

夏来たるらし

しろ え

白たへの

ころも

衣ほしたり

あま かぐやま

天の香具山

(大意)

春だ春だと思っていいたら、ああ夏がやって来たんだなあー天の香具山のほとりに、今日はいっばいに白い衣が干してある。初夏の陽をうけて実に鮮明に照り映えているではないか。
「万葉の世界と精神」(日本教文社)より

次回は、六月二十二日(土)、六階和室です

(文責・藤波)